

1 美術科における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

～芸術ワーキンググループにおける取りまとめ（案）

(1) 芸術ワーキンググループでの検討事項

- ・ 芸術系科目を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
- ・ 三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
  - 1) 何を知っているか、何ができるか（**個別の知識・技能**）
  - 2) 知っていること・できることをどう使うか  
**（思考力・判断力・表現力等）**
  - 3) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか  
**（学びに向かう力・人間性等）**
- ・ 幼・小・中・高を通じた芸術系科目において育成すべき資質・能力の系統性について
- ・ 芸術系科目において育成すべき資質・能力と指導内容との関係について
- ・ アクティブ・ラーニングの視点（主体的で対話的な深い学び）を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき芸術系科目の指導等の改善の在り方について
- ・ 必要な支援や条件整備について

画一的な指導にならないように留意し、指導方法の不断の見直しや改善を求められている。  
心と体を使って触れたり感じたりする体験や、人との関わりを通して価値を実感する活動などとの学びの関係性、そして活動を通して何が身に付いたのかという観点から、学習・指導の改善・充実を進めることが求められる。また、それらの実現のためにも、子供にどのような力が身に付いたのかを見取っていく学習評価が重要となる。

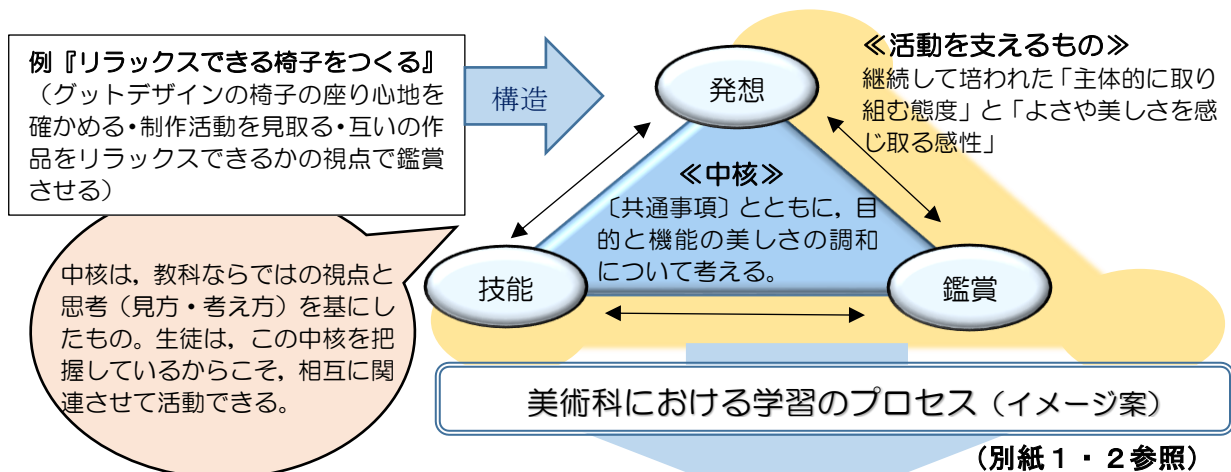
(2) 現行学習指導要領の現状と課題 → 次期学習指導要領へ

- 感性や想像力等を豊かに働かせて、思考・判断し表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成することや、主体的で創造的な学習の充実。
- 生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度を育成すること。

(3) 教科等の特質を踏まえた指導の充実及び留意事項（言語活動の充実に関する指導）

形や色彩、材料の感情効果やイメージなどを捉えながら、アイデアスケッチ等により発想や構想を練ったり、作品などに対する自分の価値意識を持って批評し合うなど、幅広く味わったりする学習活動を充実する。

言語活動を充実すること自体が目的ではなく、言語活動により、基礎的・基本的な知識及び技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育むことを目指すことに留意する必要がある。（～言語活動の充実に関する指導事例集から）



(4) 育成すべき資質・能力を踏まえた教科等目標と評価の在り方について

○ それぞれの教科の特質に応じ育まれる「見方・考え方」

「見方・考え方」を働かせながら知識・技能を習得し、「見方・考え方」が成長することにより思考力・判断力・表現力等が深まり豊かなものとなったりすると同時に、「見方・考え方」を通じて社会や世界とどのように関わるかという点が、学びに向かう力や人間性の育成に大きく作用する。

知性と一体化して人間性や創造性の根幹をなすもの。

**中学校美術科の「見方・考え方」** 感性や想像力を働かせて、形や色彩などの造形的な視点で、対象のイメージや自己の内面、他者、**社会**、文化などを捉え、心豊かに生きることと美術の関わりについて創造的に考えること。

＜社会に関わられた教育課程＞ 社会や世界に向き合い関わり合っていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化していく。

例『雨上がりの並木道』生徒の主体的な学びの中で、いつもの散歩道の「水たまり」が、「水鏡」として捉えられる。→外の世界とつながり、自分の感性で美しさをつかみ取っている。

○ 中学校美術科において、育成すべき資質・能力の整理（検討のたたき台）（別紙3参照）

○ 中学校美術科の評価の観点のイメージ（例）（別紙4参照） ※さらに検討中

知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等 (情意、態度等に関わるもの)
知識	発想や構想の能力	主体的に学習に取り組む態度 など
創造的な技能	鑑賞の能力	

※ 美術科の「知識」は、一人一人が感性などを働かせて様々なことを感じ取りながら考え、自分なりに理解し、表現したり鑑賞したりする喜びにつながる。学習過程を通じて、知識が個別の感じ方や考え方等に応じて構造化されることや、さらに新たな学習過程を経験することを通じて再構築され、知識が更新されていく。

(5) 資質・能力の育成に向けた教育内容の改善・充実から

**生活や社会の中での働きについて** 学習したことが、これからの生活の中で生きてくるといふ実感を持てるよう、指導の充実・改善を図る。また、資質・能力の三つの柱の中核となる、子供一人一人が、それぞれの学習で成長させた〔共通事項〕に関わる教科の「見方・考え方」を働かせて、世の中にある美術等と豊かに関わる重要な視点となる。

**言語活動の充実について** 非言語で捉えたことを、たとえたり見立てたり、置き換えたりすることは、思考力・判断力・表現力等を高め、表現や鑑賞を深めていく際に重要な活動となる。

(6) 学習・指導の改善・充実や教材の充実から

**個に応じた学習の充実** 子供の状況や発達段階に配慮し、更に個に応じた学習を充実させる。

**ICTの活用** ICTの活用における利点がある一方、視覚、聴覚、触覚などの身体性を通して“本物に接する”という体験が変わらず重要であることに留意する。

**アクティブ・ラーニングの視点** ※さらに検討中

**深い学び** 造形的な見方・考え方を働かせた、形や色彩と豊かに関わる学習活動。  
(表現の能力と鑑賞の能力が相互に関連して働かせるなど)

**対話的な学び** 造形的な見方・考え方を働かせて、感情効果などを理解し、説明し合ったり、自分の価値意識を持って批評し合ったりなどの、言語活動を一層充実させる。

**主体的な学び** 対象のイメージや自己の内面、他者、社会、文化などを造形的な視点で捉え、主題や見方・感じ方を大切に学習の充実を図る。また、それらの活動を自ら振り返り、次の学びにつなげていくようにする。